

第2回府中市学校教育プラン検討協議会会議録（要旨）

1 開催日時 令和7年8月7日（木） 午後6時～午後7時15分

2 開催場所 府中市役所おもや4階 第1特別会議室

3 出席者 10名（50音順、敬称略）

委員 伊藤 博 康

委員 菊 山 直 幸

委員 高 岡 麻 美

委員 高 汐 康 浩

委員 立 川 未 奈

委員 田 中 洋 一

委員 中 村 優 子

委員 増 渕 達 夫

委員 松 下 雄 太

委員 山 下 隆 久

4 欠席者 なし

5 出席説明員等

教育部学校施設整備担当副参事

兼学校施設課長 高 橋 潤

教育部副参事兼指導室長 志 村 安

教育総務課長 松 本 寛

教育総務課長補佐 浅 見 公 博

学校施設整備担当主幹 曾 根 邦 友

新たな学校づくり担当主幹

國 分 大 樹

学校施設課長補佐 大 南 尚 也

学務保健課長補佐 横 山 聖 子

給食センター所長 大 木 忠 厚

給食センター副所長 鈴 木 雄 介

教育指導担当主幹 佐 藤 公

教育・就学相談担当主幹

鈴 木 正 憲

指導室長補佐 石 渡 通 暁

教育総務課係長 大 沢 直 樹

教育総務課主任 徳 永 昭 子

教育総務課主任 青 木 なつみ

6 傍聴者 なし

7 議事日程

(1) 確認事項

ア 第1回府中市学校教育プラン検討協議会会議録（要旨）について

(2) 協議

ア 第1回府中市学校教育プラン検討協議会における指摘事項及び変更内容について

イ 第3次府中市学校教育プラン中間見直し（素案）について

(3) その他

ア 次回会議について

■会議録

○会長 ただいまから、第2回府中市学校教育プラン検討協議会を始めさせていただきます。まず、事務局から本日の委員の出席状況を報告してください。

○事務局 本日の協議会ですが、委員10名中10名の皆様の出席をいただいておりますので、有効に成立しております。以上でございます。

○会長 本日の会議は有効に成立しているとの報告がありました。

続いて、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

○事務局 昨日までに申出がなく、傍聴希望者はなしでございます。

○会長 本日は、傍聴希望者はなしとの報告でした。それでは、本日の配付資料について、事務局から説明をしてください。

(事務局から資料の説明)

○会長 それでは、次第の2「確認事項」として、前回の会議録の確認について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 事前にお送りした資料につきまして、2名の委員から修正のご連絡をいただきました。本日お配りしている2-1の資料が修正後の資料となっております。以上でございます。

○会長 委員から申出があった部分だけ直っているということですね。

○事務局 事務局において、てにをは的な部分の修正をした部分もございます。

○会長 分かりました。事務局での修正箇所もあるようですので、ここで確定ということではなく、1週間以内に、お気づきのことがあれば事務局に連絡をいただたくということでしょうか。1週間たったら決定とし、事務局で公開の手続きをするということでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○会長 それでは、第3の「協議」に進みます。(1)の「第1回府中市学校教育プラン検討協議会における指摘事項及び変更内容について」及び(2)の「第3次府中市学校教育プラン中間見直し(素案)について」、一括して事務局から説明をしてください。

(事務局から資料2-2、2-3、2-4に基づき説明)

○会長 2-2については、前回協議会の指摘を受けての変更ではなく、事前を送付いただいた資料の変更点ということでしょうか。

○事務局 事前にお送りした資料から変更した箇所は、ICT機器の活用につい

て、各施策の最後に「6 ICT機器の活用」として記載する形にしたという点で、資料2-2では、No.52に記載しています。

それ以外は、第2回協議会資料からの修正箇所でございます。

○会長 分かりました。それでは、資料2-4に基づき、ご意見をいただこうと思いますが、長くなりますので、施策ごとに区切って議論したいと思います。青字が修正された箇所ですが、まずご自分が発言したところをご意見のとおり修正されているか、また修正されたことによって新たにお気づきの点があれば、お願いします。

まず、施策1について、お願いします。

○委員 2ページの「取組の体系」について、1-1の取組内容の修正が反映されていません。

次に、3ページの「1 学習指導等の充実」の中ほどに、「正答数分布について見ていくと、小学校では、令和3年度、令和6年度いずれにおいてもともに、国語、算数ともに、下位層の割合が多くなっています」とありますが、これは東京都の平均値と比較してということでしょうか。

中学校についての記載で、「数学は、令和6年度は、A層の割合が減少し、B層、C層の割合が増加しています」とありますが、B層も減少しているのではないかと、C層とD層の割合が増加しています」というのが正しいのではないかと思います。

「以上のことから、中学校では、基礎的・基本的な知識等についてはおおむね定着しているといえますが」となっていますが、上位層が低下しているにもかかわらず、この分析でよいのか、疑問に思いました。

○会長 2ページ、3ページについてご質問がありました。事務局、いかがでしょうか。

○事務局 2ページの「取組の体系」の1-1については、修正が漏れておりましたので、修正をいたします。

3ページについて、令和6年度の中学校の数学に関しましては、確かにB層はA層同様に減少しており、分析が不十分でしたので改めて確認し、正確な内容に修正いたします。

○会長 基本的なところなので、ここはきちんと記載していただかないといけないと思います。よろしくお願いします。ほかにいかがでしょうか。

○委員 13ページの主な取組の1-1について、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」ではなく、「知識・技能を定着、思考力・判断力・表現力等の伸長に向けた取組の推進」としたことは、とてもいい変更だと思っています。それについて2点あります。

1点目は、学力の3観点のうち、「主体的に学習に取り組む態度」のことをここで書かなくても大丈夫だろうかということです。14ページの「課題解決に向けた実践力を育成する取組の推進」の一番下の行の「課題解決に向けた実践力を

児童・生徒に身に付けさせます」という部分が、主体的な学習取組態度の育成につながる文言だと思うので、付け加えるとしたらその辺りがよいと思いますので、ご検討ください。

2点目は、13ページ、1—1の1つ目「個別最適な学びと協働的な学びの充実」という文言が入ったのもとてもいいと思います。ただ、8行目の「協働的な学びの充実」についてはやや表現が弱いかなと思います。「協働的な学び」というのは、例えばICTを使って自分の考えを広げるとか伝える、というようなことがありますので、付け加えることを検討していただけたらと思います。24ページの6に新設された「ICT機器の活用」の5行目に、「考えの比較・検討・共有、表現」とありますので、そこに付け加えるというアイデアもあると思います。ご検討をお願いします。以上です。

○**会長** 2点ご意見がありました。事務局、いかがでしょうか。

○**事務局** 主体的に学習に取り組む態度につきましては、知識・技能の定着と、思考力・判断力・表現力等の伸長、双方を育成していく過程で、主体的に学習に取り組む態度が育まれていると考えております。ただし、それについてどこに記載していくかということにつきましては、再度、確認・検討をさせていただきます。

2点目の「協働的な学びの充実」に関しましては、表現が不十分だと思いますので、表記の追加を検討させていただきます。

○**会長** よろしくをお願いします。ほかにございますか。

○**委員** 13ページの下から2行目に、「家庭での学習も大切にします。デジタル教材を使って復習を行うことで」とありますが、デジタル教材のみで復習を行うと取られかねないと思います。前回もご意見がありましたが、紙の資料を使った学習も大事にしたいという考えからいきますと、表記を工夫されてはいかがかと思います。

○**会長** デジタル教材については前回も話が出ていました。デジタル教材そのものについて述べるのはよいのですが、家庭学習等について、デジタル教材に決めつけることはどうか、ということだと思います。事務局、いかがでしょうか。

○**事務局** 委員ご指摘のとおり、「デジタル教材を」とすることによって、デジタル教材のみでの復習、と誤解を招く可能性がありますので、表記を検討いたします。

なお、デジタル教材の活用については、ここで児童・生徒用の端末について入れ替えを行いますし、デジタルドリルについても今後5年間使用する新しいものを選んでいくところです。家庭学習につきましては、現在、ワーク冊子を買っているところもありますが、デジタルの部分にも重きを置きながら進めてまいりたいと思いますので、そういったことを踏まえて修正をしたいと考えています。

○**会長** 要するに、デジタルと紙を併用するけれども、市の方針としてデジタルのほうに少し力を入れているというニュアンスが出ればよいということですか

ね。

○事務局 24ページの「ICT機器の活用」の中で、紙の資料も念頭に置きながら記載している部分もございます。当然両方のよさがありますので、委員からご指摘いただきました内容で、整合を図ってまいりたいと考えております。

○会長 「ICT機器の活用」という項目が別に立っているわけですから、ここは家庭学習についての記載なので、あまりICT機器を強調しないほうがいいのかなと私も思います。

では、ほかにいかがでしょうか。

○委員 15ページの真ん中の赤字で「道德教育の推進」のところ、「主体性をもって」の「もって」を漢字から平仮名に修正されています。そうすると、17ページの「小・中連携教育の推進」の5行目に「児童・生徒を育てる視点を持ち」とありますけれども、これをどう区別しているのかが分かりません。

次に、誤字だと思うんですけれども、16ページ、赤字になっている「健康・安全教育の推進」の6行目、「工夫を行ういます」となっていますので、「行います」が正しいと思います。

17ページ、「ふるさと学習の推進」の2行目から3行目、「府中の自然や文化、先人の苦労や偉業について学ぶとともに、府中の人々との触れ合いを通じて、府中の良さに気付かせるとともに」とあり、「とともに」が重複していて違和感を感じました。

○会長 3点ありました。事務局、いかがでしょうか。

○事務局 委員ご指摘の3点につきましては、事務局で協議し、修正するべきところは修正してまいりたいと思います。

○会長 文言の統一ですよね。「持つ」という字は、手に持つ以外は平仮名でというのが一つの基本ですが、手への字を使って間違いかということそうではないので、統一されていればいいと思います。その他のご指摘は間違いに近いものがあるようですので、事務局で修正をお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○委員 18ページの「校内支援体制の充実」に「特別な支援を必要する」とありますが、これは「必要とする」だと思います。

「学習環境の整備」の下から3行目、「また、デジタル教科書等のデジタル教材の活用や障害の程度や心身の状況に応じて医療的ケアを含めた人的支援を行うなど、合理的配慮を提供するなど、児童一人一人の」は、「など」が並んでいて分かりづらいです。

19ページ、「2—3 教員等の専門性の向上」は「教員の専門性の向上」で、「等」は要らないのではないのでしょうか。

○会長 事務局いかがでしょうか。

○事務局 「など」の重複、「必要する」という箇所につきましては、修正します。

3点目の2—3の「教員等」の「等」につきましては、下から2行目に「支援

委員等」もありますので、こちらはその部分の「支援員等」を「教員等」に置き換えていますので、「教員等の専門性の向上」としているものです。

○会長 「教員等」で統一しているんですね。

○事務局 おっしゃるとおりです。

○委員 資料2―3の体系図には、「2―3 教員の専門性の向上」とありますが、これはどうなりますか。

○事務局 「等」をつけて修正いたします。

○会長 「教員等」で統一するということですよ。逆に「教員等」で統一すると支援員というのが見えなくなってしまうような気がするのですが、一般の方がお読みになったときに「教員等」というのは何が含まれるのか分からない。そのあたりはいかがでしょうか。

○事務局 文章表記につきまして、分かりやすくするために事務局で再度検討させていただきますと思います。

○会長 これは具体的には教員と支援員の2つなんですか。

○事務局 そのとおりです。

○会長 2つだったら「等」を使わないで「教員と支援員」で構わないと思いますが、今ここで結論を出さなくて結構ですので、検討してください。

ほかにいかがでしょうか。

○委員 21ページの「3―5 地域との連携強化」の図について、「コミュニティ・スクールのイメージ」と書いてあって、その下には「スクール・コミュニティ協議会」という表記になっています。この区別が読み取れなかったのですが、どこかに示されているのでしょうか。

○会長 事務局、お願いいたします。

○事務局 「コミュニティ・スクール」は、国で統一した表記になっておりまして、本市の場合には、府中版のコミュニティ・スクールを試行し始めていたところがあり、国と区別するために語順を逆にし、「スクール・コミュニティ協議会」という名称で設置しているものです。

○委員 となれば、この図のタイトルは「スクール・コミュニティ協議会」のほうが読み取りやすいのではないのでしょうか。そこが混乱するかなと思って、気になりました。

○事務局 様々な場面で「コミュニティ・スクール」という言葉が教育業界の中で誰にでも通じやすい部分があります。府中市では「コミュニティ・スクール」に基づくものは3校で、それ以外の学校は「スクール・コミュニティ協議会」を設置して実施しているという状況です。この図においては、一般論の名称を使ったほうがイメージしやすいと考え、この表記にしております。

○会長 私も委員と同じような考えを持ちました。「コミュニティ・スクール」というのが、要するに文科省が示している一般的なもので、府中市は下の図ということですよ。下の図が、府中市の「スクール・コミュニティ協議会」を中心

とした考え方を示したものであれば、タイトルも「スクール・コミュニティ」のほうが分かりやすいのではないのでしょうか。ここでは、府中市の考え方を説明すればよいのだから。私もそう感じました。どうでしょうか。

○事務局 例えばですが、これは「スクール・コミュニティ協議会」を中心にした記載になっておりますので、この図の名称も、上の括弧書きと同様に「府中版コミュニティ・スクールのイメージ」として揃えていくということも一案かなと考えております。

○会長 では、ほかにいかがでしょうか。

○委員 修正していただきたい箇所があります。まず23ページの「通常の学級における学校生活支援シート作成率」の次のところ、「通常の学級に在席する」の「席」の字が間違っていますので、修正をお願いします。

あと、違和感を感じたのは、24ページの「ICT機器の活用」の上から6行目、「児童・生徒の学習幅を拡充し」とありますが、「学習幅」という言葉をあまり聞いたことがありませんので、「学習の幅」というように「の」を入れたほうがいいのではないかと思います。以上です。

○会長 2点ご指摘がありました。いかがでしょうか。

○事務局 誤字の修正及び「の」という助詞の追加について、対応いたします。

○会長 施策1について、ほかにございますか。

○委員 23ページの「全国学力・学習状況調査における正答数分布の状況」で、中3・国語のD層が－2.1ポイント、5ページの表では、中学校の国語・D層は－3.0となっていますが、これはどのように見たらよいのでしょうか。

○会長 事務局、お願いします。

○事務局 ご指摘いただいたとおり、数値にずれがありますので、正しい数値を確認して、統一します。

○会長 ほかにいかがですか。

○委員 24ページの「ICT機器の活用」に関係するのか、12ページの「学校組織・人材の支援」に関係するのか分からないのですが、ICT支援員の配置によって、子供たちのICTの活用がとても進んでいると思います。また、教育委員会で教員向けのICT機器の研修なども充実していただいています。その辺りについても、記載をしてはいかがでしょうか。

○会長 事務局、いかがですか。

○事務局 こちらについては、子供たちがICT機器を活用してどのように学びを深めていくか、子供たちが時間や場所を選ばずにどのようにデジタルを活用するかという視点で記載をさせていただいております。

ICT支援員につきましては、裏方のサポート的な部分になります。今回のプランの中間見直しにおいては、子供たちに対してどのように学びを充実させていくかということになるべく特化して表現してまいりたいと考えております。見えづらい部分についても、今後も引き続き同じようにやってまいりますので、こ

こには記載していないというところでございます。

○**会長** こういった支援員については、府中市はかなり手厚いですよね。委員のご意見は、今後、例えば財政状況か何かで簡単に予算削減をされないように、こういうところにも書いておきましょうということだったと思いますが、委員、よろしいですか。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、施策2に入りたいと思います。25ページから32ページまでです。何かございますでしょうか。

○**委員** 26ページの「1 教育相談・教育支援」の赤字の部分に、「不登校の児童・生徒数の割合（出現率）」という記載があります。「出現」という言葉が、不登校の児童・生徒にとって適切かどうかというのが少し気になりました。「出現率」ではなく「割合」ではだめなのか、教えていただければと思います。

○**会長** 「出現率」という言葉についてのご質問です。いかがでしょうか

○**事務局** 「出現率」については、下のグラフにあります「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の中で使われている言葉を、そのまま使用しております。

○**会長** 文部科学省が使っている言葉をそのまま使っているということですね。ほかにございますか。

○**委員** 資料2-3の体系図の施策2-1-2で「個に応じたきめ細やかな支援の充実」となっていますが、「支援の実施」が正しいと思うので、修正が必要だと思います。

27ページの「学びを確保するための経済的支援」の赤字部分の下から2行目、「奨学金奨学金等返済」となっていて「奨学金」という言葉が重複しています。

○**会長** これは明らかに誤植ですので、事務局で修正してください。

私から、出典の記載について、26ページの出典はタイトルだけで、文科省とか年度等は入れないでよいのでしょうか。「文部科学省・何年度調査」と入れないと出典にはならないのではないかと思いますのですが、いかがですか。

○**事務局** 出典につきましては、ご指摘のとおり修正をします。

○**会長** ほかにございますか。

○**委員** 28ページの主な取組1-3、「不登校児童・生徒に対する重層的な支援」の記載の中に、「不登校の児童・生徒の個々の状況に応じて、児童・生徒が適した場所で」とありますが、例えば「不登校の児童・生徒の個々の状況に応じて、安心して過ごせる場所で適切な支援を受けられる体制を確立していく」というほうがすっきりするかなと思います。ご検討お願いします。

○**会長** 事務局で検討していただいて、適切に、より滑らかに修正していただくということでよろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

○**副会長** 31ページの「不登校児童・生徒の相談率」の青字の箇所で、「専門的な相談を受けた者及び教職員から週1回程度以上の相談等を受けた」とありま

す。専門的な相談を受けていて、「なおかつ」という意味になりますが、これで大丈夫ですか。そうすると、結構ハードルが高いと思うのですが、そういう理解でよろしいでしょうか。

○会長 「及び」でよろしいですか。事務局お願いします。

○事務局 ご指摘いただいたとおり、こちらにつきましては「及び」ではなく、「または」になるかと思いますので、文言を再度確認して、修正をいたします。

○会長 この部分について、不登校児童・生徒が主語になっていて、「教職員から週1回以上の相談等を受けた」となっています。教職員の相談を受けたと、教職員が相談者になっているんですけど、この表現で大丈夫ですか。

○事務局 こちらにつきましては、文科省の問題行動調査の設問であり、そちらとの文言と併せながら、改めて誤解のないように整理をして、読み手に分かりやすい表現を検討いたします。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 全体に関係するところかと思いますが、特に新しく文章を追加したところについては、より精査する必要があると思っております。

例えば、31ページの「ICT機器の活用」では、「担任」という言葉が出てきますが、学習指導要領の文言に合わせれば「学級担任」となります。ただ、気持ちの変化に気づくのは学級担任だけではありませんので、例えば「教職員」とかそういう文言にしたほうがいいのかと思いますので、精査をお願いします。

少し前に戻りますが、「紙の資料」と「教科書」という対比があるんですが、紙の資料と教科書は全然レベルが違いますので、少し整った形にしたほうがいいのかと思います。

あと、「良さ」が漢字だったり平仮名だったりというところもありますので、確認していただければと思います。

○会長 今の部分は表現のご要望ですので、事務局で検討してください。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、施策の3に入りたいと思います。33ページからになります。

何かお気づきの点がございましたら、お願いいたします。

○委員 35ページの下、「1 学校規模・配置の適正化を踏まえた学校施設の改築・長寿命化」の中で、「学校施設改築・長寿命化改修計画に基づき、計画的かつ着実に学校施設の老朽化対策を着実に」とあり、「着実に」という言葉が重複しています。

この部分の一番最初に「学校施設改築・長寿命化改修計画」とありますが、「府中市」を付けなくてよいのでしょうか。その後に出てくるときには「府中市」が付いています。

36ページ、「1—2 校舎等の改築」の「多様な学習活動に対応できる環境」の中には、「学校施設の改築を着実かつ計画的に」とあります。「計画的かつ着実に」なのか「着実かつ計画的」なのか、合わせたほうよいと思いました。

次に、「また、教職員がそれぞれの力を発揮し、新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を進めていきます」というところの意味が分かりづらいと思います。現計画では「発揮し」の後に章が続いていたのですが、その部分が削除されて「新しい時代の」につながっています。削除した理由は分からないのですが、意味が通じづらいと思いました。

37ページの主な取組の「2-2 短期間で実施する大規模改修」に、「引き続き体育館及び屋外トイレの改修を進めてまいります」「計画的に更新してまいります」とあります。「まいります」という表現はほかではしていないので、普通に「します」でいいのではないのでしょうか。以上です。

○会長 何点かご指摘がありましたが、文言については読みやすく修正していただきたいと思います。一番肝心なところは、府中市の計画の名称ですね。学校施設長寿命化改修計画という、これは正式名称がありますよね。それに「府中市」は付いていないのでしょうか。

○事務局 ご指摘のとおり「府中市」と付いておりますので、修正いたします。

○会長 計画の名称は正式名称にしておく必要があります。

私からですが、主な取組の「短期間で実施する大規模改修」という表現に違和感があります。例えば「大規模改修の迅速な実施」とか、そういうような表現になりませんか。いかがでしょうか。

○事務局 表現を検討させていただきます。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 34ページの「現状と課題」の図について、『参考：「第2」で終わっている表記がありますがこれは何でしょうか。

また、グループ分けの図について、第1グループと第2グループがあって、この第1グループの形がホームベース型になっているのは、これは何か意味があるのか、教えてください。以上です。

○会長 いかがですか。事務局、お願いいたします。

○事務局 1点目については、表で一部の文字が隠れてしまっていますので、修正いたします。

それから、図の形が違うところに関しましては、こちら、先ほど出ました府中市学校施設改築・長寿命化改修計画の中に掲載しているものがこういった図になっておりまして、意味としては第1グループを終えてから第2グループに行くという矢印的な意味合いを持っているということでこういった図形とさせていただいております。

○会長 この図が分かりにくいというご指摘ですよね。一般の方が読むわけですから、もう少し同じ内容を見やすく整理したほうがいいのではないかとご指摘でしたけれども、いかがでしょうか。

○事務局 一般の方がご覧になったときに分かりやすいものを工夫したいと思います。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 35ページの中央あたりにあります「学びの多様化学校 かがやき」のかぎ括弧の位置が違うと思いますので、修正をお願いします。

○会長 誤植ですので、事務局で修正をお願いします。

私から質問です。38ページの3—3のところで、「校舎・体育館の機械警備」とありますが、体育館も校舎に含まれると思います。もし体育館を別で記載するのであれば、校舎・体育館のほかにもプールなどたくさん出てきそうな気がします。校舎・体育館という言い方が普通なのでしょうか。

○事務局 通常使う言い方ではあるのですが、確認をいたします。

○会長 「校舎・体育館」と書くと「校舎と体育館ですね」という話になりますから、実態に合うように表現していただけたらと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○委員 37ページの下から2行目に、「児童・生徒の力を最大限引き出す学び」とありますが、この「力」というのは何を表すのでしょうか。

○会長 いかがでしょうか。

○事務局 委員ご指摘の「力」という表現について、前後の文脈等もありますが、抽象的過ぎるという印象も受けますので、検討させていただきます。

○会長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 36ページの「1—2 校舎等の改築」の「多様な学習活動に対応できる環境」の内容について、児童・生徒に関する記載は分かりやすいのですが、「教職員がそれぞれの力を発揮し」というところが分かりづらいように思います。例えば「教職員が専門性を発揮し」という表現がよいのではないのでしょうか。

○会長 今のご意見に対して、事務局いかがでしょうか。

○事務局 「それぞれの力」は抽象的な表現でございますので、委員のご意見を踏まえ、修正したいと思います。

○会長 授業等がやりやすいような施設設備をすることで、教職員が専門性を発揮できるということだと思いますので、わかりやすく表現してください。

ほかにございますか。

○委員 38ページの「3—4 教育関連施設の管理・運用」に「かがやき」と「けやき」の記載がありますが、「はばたき」は入らないのでしょうか。

○事務局 「はばたき」は福祉施設という位置付けになっておりますが、市教育委員会から市長部局に事務を補助執行する形で教育相談・就学相談を行っております。重要な教育施設の一つだと考えていますので、記載を追加することを含め、検討させていただきます。

○会長 ほかにございますか。よろしいでしょうか、

委員の皆様からいろいろと細かい指摘をいただいたので、事務局は大変だと思いますが、修正をお願いします。協議会の回数が少ないので、誤字脱字が無いように、よろしくをお願いします。

それでは、第4の「その他」に進みます。(1)の次回開催について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 事務局からご連絡します。

① 第3回会議（最終回）の開催日時について

② 答申案の事前送付について

○会長 今、事務局から説明がありましたが、今回は最終回です。ぜひ完成度の高いものをお送りいただければと思います。

では、本日はこれで閉会とします。ありがとうございました。